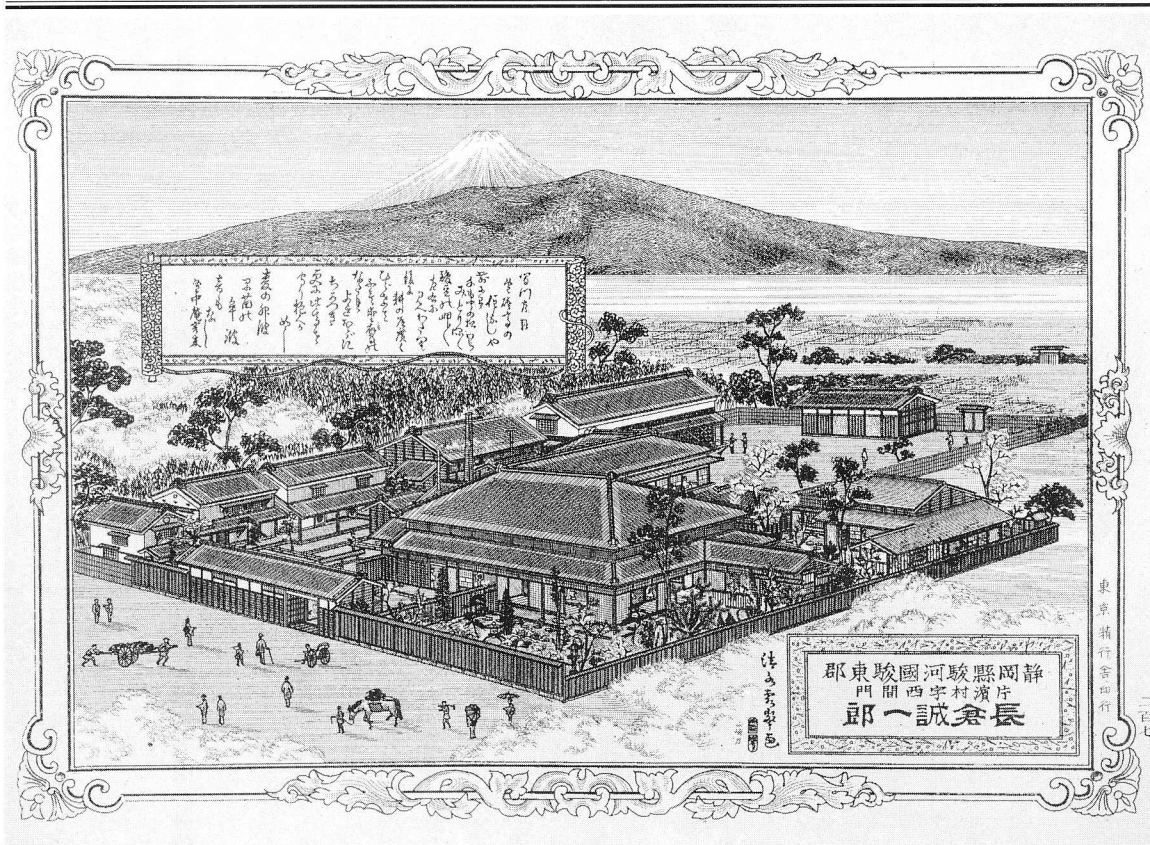


明治史料館通信

1989. 1. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 4 No. 4 通巻第16号



長倉誠一郎の大邸宅 (『日本博覧図』より)

ぬまづ近代史点描 ⑪

西間門長倉家と心学

心学(石門心学)とは、近世中期石田梅岩^{ばいがん}によって創始された庶民のための教学である。儒教道徳に仏教・神道の教説を取り入れた平易なその教えは、成長しつつあった町人階級に広く普及し、従来蔑視されていた商業行為に正当性を与え、勤勉・倹約・正直などの徳目を中心に「町人の哲学」としての役割を果たした。道話と呼ばれる講義や寺子屋教育などを通じて全国に広まり、十九世紀初頭には全盛期を迎えた。

現在の沼津市域に心学の教化が及んだのは、全国的には衰退期にあった幕末である。もたらしたのは広島藩士出身の心学者中村徳水、受け入れたのは駿東郡西間門村の長倉源右衛門とその一族郎党、同郡松長村の名主増山源七とその一家、布川謙齋ら荻野山中藩松長陣屋在勤の武士、小林要造ら沼津藩士、といった人々である。弘化二年(一八四五)から嘉永三年(一八五〇)にかけて七回ほど西間門や松長を訪れた中村は、長倉家・増山家で道話を行った。両村の門人たちは社中を形成し

その教えを受けたらしい。

さて心学を受容した長倉源右衛門家は、駿東郡きつての大地主である。幕末期の村落内における階級対立の激化や地主経営の危機といった状況が同家を心学による修身齊家・民衆教化の効力に飛び付かせたのかも知れない。中村を自宅に招いた源右衛門は、同家六代目の当主で明治二年（一八六九）

弁償し油代から手本に至る迄残る限なく之を弁償す嗚呼真誠の美事なる哉」と報じられている。長倉源左久は明治二十八年（一八九五）七十歳で亡くなったが、明治二十三年の「日本全国貴族院多額納税者議員互選名簿」によると、直接国税一千円以上を納める静岡県屈指の巨大地主に成長していたことがわかる。その子誠一郎も県会議員・駿東実業銀行頭取などをとつとめ、県政財界に重きをなした。大正十三年（一九二四）時点でも同家は、田畑一四四町歩、小作人一四四戸を保持していた。

地主・資本家への道をたどった長倉家発展の歴史の中で、心学の伝統は近代精神にそぐわないものとして捨て去られたのであろうか。それとも何らかの形で継承された部分もあつたのであろうか。

（参考文献）及川大溪「中村徳水の駿遠地方における心学教化」『地方史静岡』3・『静岡県現住者人物一覧』・『駿河銀行七十年史』

・『明治期日本全国資産家地主資料集成』・『大正昭和日本全国資産家地主資料集成』

心学講舎参前舎は、明治維新後も存続したが、長倉家と心学との関係がどうなったのかは不明である。しかし長倉源左久は地域名望家として民衆の啓蒙に力を入れ、村民のために夜学を開設したりしている。明治十四年（一八八一）十月十八日の『沼津新聞』では、「当郡西間門村なる長倉源左久氏は村内の不文にして一六会疑蔓延の兆候あるを憤り人民を陶冶せんとして自宅の茶部室に於て夜学を始めたり其入費たるや一家にして之を

シリーズ 沼津兵学校とその人材 天朝御雇

沼津兵学校の優れた教授陣は政府からも目を付けられ、明治二年後半頃から政府に出仕を命じられる者が続出した。引き抜かれて沼津を去っていく人々は、「天朝御雇」と呼ばれた。

その現象は、静岡問所の教授陣

熊谷直孝辞令
(熊谷孝一氏所蔵)

熊谷次郎橋
土木司出
仕申付准
十三等候
二月
民部省

沼津からの天朝御雇一覧

明治 1.12.12	川上冬崖	(沼津兵学校絵図方)	→開成所筆生
明治 1.12.14	揖斐 章	(沼津兵学校三等教授)	→軍務官出仕
明治 2.9.8	篠原貢堂	(沼津病院三等医師)	→大学大助教
明治 2.秋	山内勝明	(沼津兵学校三等教授)	→陸軍
明治 2.?	桂川甫策	(沼津病院三等医師)	→大学南校
明治 3.1.10	田辺太一	(沼津兵学校一等教授)	→外務少丞
明治 3.2.17	河津祐賢	(沼津勤番組一番頭取)	→大阪陸軍所出仕
明治 3.2.19	熊谷直孝	(沼津兵学校教授方手伝)	→民部省土木司出仕
明治 3.3.13	赤松則良	(沼津兵学校一等教授)	→兵部省出仕
明治 3.5.3	林 洞海	(沼津病院重立取扱)	→大学中博士
明治 3.7.11	杉 亨二	(沼津兵学校二等教授)	→民部省出仕
明治 3.9.28	西 周	(沼津兵学校頭取)	→兵部省出仕 少丞准席
明治 3.10.1	高島茂徳	(沼津兵学校三等教授)	→兵学寮砲兵係
明治 3.10.20	永持明德	(沼津兵学校三等教授)	→大阪兵学寮
明治 3.?	山本淑儀	(沼津兵学校三等教授並)	→海軍兵学寮 大得業生
明治 3.?	山田昌邦	(沼津兵学校教授方手伝)	→海軍兵学寮 大得業生
明治 4.1.	白戸隆盛	(沼津勤番組之頭)	→陸軍少佐
明治 4.1.	三浦 煥	(掛川小病院頭取)	→軍医

など他の静岡藩士にも及んだ。明治二年勝海舟・津田真道・洪沢栄一・前島密・肥田浜五郎、三年外山正一・堀越愛国・杉浦謙・岩橋教章、といった具合である。しかし沼津・静岡に残った者にとつても、明治政府へ仕官するのは時間の問題だった。廃藩置県は目前に迫っていたのである。

江原素六とその周辺



江原素六と 島田三郎

江原素六・島田三郎の二人はと

もに旧幕臣であり沼津兵学校の管理
者・生徒の關係だったばかりで
なく、政界やキリスト教界の名士
としても同じ道を行んだ先輩・後
輩であった(年齢差は十歳)。特に、

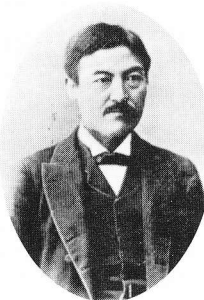
薩長藩閥に屈せず、世界への広い
視野と底辺社会に対する問題関心
を持ち続け、生涯在野の精神を貫
いた点で、この二人は共通するパ
ーソナリティーを有していた。

江原没後大正十二年刊行の『江
原素六先生伝』に寄せた島田の一
文からは、清廉・寡欲な先輩に対
する深い尊敬の念が伺える。

さて、ここに紹介する史料は、
明治三十一年(一八九八)に松島
廉作にあてた島田の書簡である

(当館所蔵)。松島は遠州浜名郡五
島村(現浜松市)の人で、改進黨

―進歩党に属し衆議院議員をつと
めた人。島田も松島も当時進歩党
員であり、三月二十五日の第五回



島田三郎



松島廉作

総選挙に向けて選挙運動の真最中
であった。島田は沼津での進歩党
演説会の弁士を頼まれたらしいが、
先輩である江原が政敵自由党から
立候補することに遠慮して、沼津
遊説を断つたらしい。この書簡か
らは、政治上の主義主張と先輩に
対する恩情との板ばさみになった
島田の苦悩がにじみ出ている。

沼津での選挙結果は、進歩党市
河篤三の落選、江原の勝利だった。
(封筒)
駿州沼津町下小路
進歩党撰挙事務所
松島廉作様 必親展
中六番町三十一 島田三郎

二月二十日 島田三郎

松島老台侍史

尊書拝誦仕候井上氏之進退ニ付行
違ひを生じ多年進歩党之為めに尽
力せられ候氏之退引ニ関シ政友間
に紛議を生じ候こと遺憾之至ニ存
候同氏之退引ハ種々之事情も可有
候其内部にハ余議ナキ次第も推察
仕候得共兎に角今少シ慎重に国友
に謀られし事ニハ紛議を避け円満
之終局を得ラレ可申をト痛嘆にた
へず候双方之間に御立ナサレ候老
兄之御苦衷実に御察シ申上候扱又
沼津に於ける演説会に出席を要ス
云々御尽力奉謝候小生も御手伝に
可罷出答ニハ御座候へ共此事ニ関
シ候てハ小生身事ニ一種之情誼有
之候ハ別議ニも無之江原素六氏ハ
小生少年沼津ニ於て教育を受たる
時期同氏ハ学校創立者之一人にて
教務を総管スル者之列ニ居り候に
付小生親く教を受たること無之候
へ共名分上小生ハ門人之列に相当
り申候世態大に変候も小生ハ常に
社交上同氏を先輩として待遇罷在
候往年藤枝町ニ罷出候節飯高某氏
(旧姓七之丞)に邂逅候節其旧誼
を思ひ謝意を述べたこと有之恰も
江原氏に對するモノト同様之感情
に出候今日政界に於て相争に際し

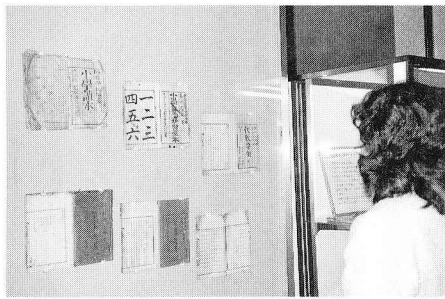
等之關係を以て辭謝仕候こと癡態
に屬すると評する者も之あらん但
小生之性として同氏を当之敵とし
て争ふに忍びず尤氏之人と為り恬
澹にして自由党中に身を置くハ宜
き所にあらずと嘗て私席ニ於てハ
田口卯吉氏と共に(田口氏も小生
と共に江原氏管理之学校に教を受
たる縁故あるにより)退党を勧め
たること有之江原氏も中心自由党
之腐敗を嘆シ引退之志ありと存候
今回も強て立たしめたる者と了解
罷在候且小生が沼津に在りシ縁故
を利用シテ此地に江原氏と対戦之
會に臨み候ハ更々不可なる者ある
を覺へ候小生が政友に尽す分野ハ
他ニ多々有之候に付今回ハ他之政
友に計議シ臨席を乞ひ可申鳩山氏
と協議之上電報を以て御確答可申
上候(鳩山氏幸に承諾セバ同氏參
席スベシ)事情如此ニ候得共此事
を明白に御地之政友に御語り被下
候こと味方之不利と御考へ二候ハ
、他之理由を以て御披露被下度若
シ差支ナシト御考被成候ハ、小生
ハ更ニ忌むべき議ト不存候間御話
シ被下候て更ニ差支無之候先ハ不
參之理由申上度一書拝呈仕候頓首

お知らせ欄

◎企画展「教科書のあゆみ」を
開催中

昨年12月20日から、四階展示室で企画展「教科書のあゆみ」が開催されています。

ここでは、江戸時代からの教科書の移り変わりを、江戸時代、文明開化期、検定教科書時代、国定教科書時代、十五年戦争時代、戦後などの時代に区分して展示し、また文明開化期にさかんであった教科書の地方出版のもとで静岡県内で刊行された教科書や、沼津兵学校の影響の色濃い、沼津で出版された教科書など、郷土ゆかりの



「教科書のあゆみ」展のようす

教科書も展示されています。

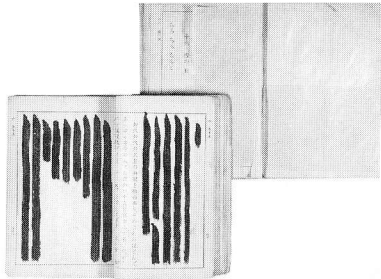
市の広報誌やこの欄で呼びかけを行った終戦後の墨塗り教科書も提供者があらわれ、展示することができました。

市立沢田小学校では、3年生が団体で見学し、自分たちの学校の講話を聞きながら、教科書展で学習しました。

この教科書展は2月26日(日)まで開かれています。どうぞお早めにご来場下さい。

◎企画展示室の閉室について

企画展「教科書のあゆみ」終了後の展示替え作業のため、四階展示室をつぎの期間閉室といたします。2月28日(火)～3月3日(金)。



墨塗り教科書と紙貼り教科書

終戦直後、占領軍の政策により軍国主義的記述が教科書から削除された。墨塗りによったことはよく知られるが、紙を貼った場合もあったことが資料から伺える。

三階展示室及びその他図書室などについては平常通りです。

◎「寄贈ありがと」ございました

昭和61年7月以降、当館にご寄贈をいただいた方々のお名前と資料はつぎのとおりです。(敬称は略させていただきます。)

- 短刀他・大築志夫(鎌倉市)
- 写真他・田辺美佐子(京都市)
- 古文書・林富貴子(八王子市)
- 絵草紙・小川喜市郎(三園町)
- 絵はがき・加藤三郎(本郷町)
- 辞令他・間宮信征(東京都)
- はがき他・鈴川憲二(上土町)
- 印刷画・岡正二(下香貫柿原)
- 掛軸他・中村通子(伊勢原市)
- 書籍・白石あや子(下香貫柿原)
- 浮世絵・田中和男(下本町)
- 古文書・伊藤栄勝(東京都)
- 清野武(京都市)
- 左登(東間門)
- 小松千枝(東京都)
- 為次(松長)
- 陽一(御幸町)
- 正巳(横須賀市)
- 口勝次郎(西稚路)
- 高田綾(東京都)
- 雄(大阪府島本町)
- 新開・石井
- 絵はがき・長谷川
- 絵はがき・青山
- たんす他・水
- 古文書他・
- 短冊・万年文
- 書幅・小平

允子(千本松下町) 教科書・森秀久(石川) 古文書・秋鹿俊雄(本松下) 書籍・古屋重親(柏市)

古文書・大和瀬寅直(二瀬川町)

教科書・鈴木博光(柳沢)

楽譜他・立石月子(沼北町) 和本他・持田篤胤(岡宮) 教科書

中村和実(大岡北小林) 教科書他・青木昇(重寺) 教科書他・和田道雄(本字下一丁田)

いただいた資料は大切に保存し、今後の館活動に活用させていただきます。

◎続けてお読みになりませんか

「明治史料館通信」は、市役所玄関や市関係施設等で配付していますが、継続してお読みになりたいため郵送をご希望の方は、住所・氏名・電話番号明記の上、2年間の郵送料として六〇円切手8枚を同封し、当館あて封書でお申し込み下さい。

沼津市明治史料館通信 第16号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五